

横浜市立善部小学校 平成27年度版 中期学校経営方針 (平成25年4月～平成28年3月)

学 校 概 要

校長名：小澤紀子 副校長：本間 明 開校年月日：昭和54年4月1日（創立記念日6月1日）
 学級数：16学級 児童数：450人 教職員数：29人 小中一貫ブロック：南希望が丘中学校ブロック

学 校 教 育 目 標

出会い ふれあい ひびきあい

- 基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学び続けようとする子を育てます。（知）
- 人権教育を推進し、みんなが安心して豊かに生活をしようとする子を育てます。（徳）
- 自らの健康や安全に関心を持ち、健やかでたくましい体をつくろうとする子を育てます。（体）
- 家庭・地域・学校が連携を深め、地域・社会に積極的にかかわろうとする子を育てます。（公）
- 様々な人とのふれあいを通して、自らの考えや視野を広げようとする子を育てます。（開）

学 校 経 営 中 期 目 標

- 地域・家庭・学校との連携をさらに深め、温かい雰囲気の中で子どもたちが生き生きと成長することができる学校を目指します。
- 子どもたちが多くの人々とのかかわりやたくさんの体験を通して、多くのことを学び、自分を主体的に表現し、さらに次の課題に向けて挑戦することができる子どもを育てます。
- 自他とのかかわりのなかで、自他のよさに気づき、自分を高めようとするとともに、互いに認め合い、高め合おうとすることができる子どもを育てます。

学校経営
中期目標
設定理由

本校は、「黄色いベスト（登下校の見守り活動）」の取り組みなど、地域や保護者の方々と連携をして、子どもを育てようとする環境があります。この3年間においても、地域・保護者ボランティアの取組や近隣高校との交流、学校協働運営協議会の設立などを通して、地域・家庭・学校が一体となってたくさんの温かい支援のなかで育むことができる土壌をつくることができました。このような環境のなかで、子どもたちが多くの人々とのかかわりや豊かな体験を通して、自らを高めよう、また互いに高め合おうとする子どもを育てていきたいと考えます。

小 中 一 貫 教 育 推 進 ブ ロ ッ ク 目 標

共通目標

共通スローガン：「行きたい学校、帰りたい家庭、住みたいまち」～9年間の連続した子育てのために～
 3校でめざす子ども像：自分をとりまく人々と積極的に関わりを持ち、その中で自ら成長する子ども

自校の取組

- 南希望が丘中学校、希望ヶ丘小学校との3校連絡会を基盤として、互いの授業参観、情報交換、職員交流を年3回行い、小中一貫カリキュラムの推進・検証を行います。
- 6年生の南希望が丘中学校見学を年に2回行うほかにも、教職員の情報交換を密にとり、新入生が円滑に中学校生活に移行することができるように支援します。
- 3校合同学校保健委員会を行います。保健委員会の児童・生徒を中心に小中で同じテーマで取り組むことによって、9年間の連続性をもって子どもたちの体力・健康への意識・実践を高めていきます。

共 通 取 組 内 容

1 確かな学力

- 「しっかり教え、しっかり引き出す」授業を展開することができるように、年5回授業研究会を行い、個々の教師の授業力向上を図ります。
- めあてを提示し、毎時間子どもたちが何をすべきなのかを明確に示すとともに、ノートのとり方、発表の仕方、話の聞き方など学習の仕方の基礎・基本を定着することができるように丁寧に指導します。

2 豊かな心

- 人権福祉教育を通して、人を思いやることの大切さ、互いを認め合うことの大切さを知るとともに、自分のよさを進んで出していこうとする子どもを育てます。
- スマイル班活動や体験学習などを充実させることによって、子どもたちがたくさんの友だちや人々とかかわり、互いに認め合い高め合うことのよさを実感することができるようにします。

3 健やかな体

- 早寝・早起き・朝・昼・晩ご飯を推奨し、子どもたちの生活習慣を整えていきます。子どもたちが「食」や「健康」の大切さについて考え、実践することができるようにします。
- 子どもたちが体力を高めることへの必要感や充実感を味わうことができるように、「なわとび」を通した一校一実践や環境の整備、外遊びの推奨や生涯体育を目指した教科体育の充実をめざします。

重 点 取 組 分 野

4 教育課程・学習指導

- 小中一貫カリキュラムをもとに、補充・基礎・発展を取り入れた授業の実現を適切に行います。子どもたちが毎時間何を取り組むのかを明確にして、子どもたちがめあてをもって意欲的に学習に取り組むことができるようにします。

5 児童支援・特別支援

- 児童支援専任や特別支援コーディネーターを中心として、「全部の子どもたちを全教職員で」をスローガンとして、職員会議や打合せなどを通して、子どもの話を行い、全教職員が共通理解をしたうえで、子ども一人ひとりに沿った指導支援を行える体制をつくります。

6 安全対策

- 月に一度様々なケースを想定した避難訓練を行います。地域合同防災訓練や不審者対応訓練などを通して、子どもたちの安全確保のために、現在の安全対策、避難訓練、組織などを見直し、より具体的な場面を想定した安全対策を検討します。

7 保護者地域学生とともに

- 保護者・学生・地域人材の登用、地域の教育資源（人・もの・こと）の有効活用などを通して、地域・保護者・学生・教職員が力をつなげて、子どもたちの成長を支援していくことができるようにしていきます。

人 材 育 成 ・ 組 織 運 営

- 3委員会制度を充実させ、全教職員が「一役一人」を担い、それぞれの権限と役割を明確にして、組織のなかで教育計画の作成、学校運営などに取り組むことができるようにします。
- 一部教科担任制を導入するなど、学級担任のみがクラスの子どものみではなく、チームとして多くの先生が子どもたちにかかわり、ときにはチームでケース会議をもつなど、全ての教職員で一人ひとりの子どもたちを支援していくという体制をつくります。
- 初任研コーディネーターを中心として5年次以下の教職員を対象に、月1回「スマイル塾」を行い、授業力向上に向けた研究研修会を行います。また、職員研修を年4回以上行い、全職員が互いに授業力向上・指導力向上に努め、学校としての組織力アップにつなげていきます。
- 教員全員が年1回以上授業を公開し、授業研究会を行い、授業力の向上を目指します。

